

# 湘南まぜこぜ計画

---

社会参加実習 実習成果発表



## 目次

## 目次

---

1. 私が注目した社会問題.....	2
(1) 長期休みと食事の問題.....	2
2. 実習先に関する情報の整理.....	3
(1) 団体概要.....	3
(2) 団体の歴史と経緯.....	3
(3) 主な活動内容.....	3
(4) . 私が思う実習先のすごいところ（面白いところ）.....	4
(5) . 実習でやってみたいこと、達成してみたいこと.....	4
(6) . 実施スケジュールと現在の進行状況.....	4
(7) . 引用文献・資料.....	4
3. 社会参加実習、実習日記.....	5
4. 実習成果発表資料.....	11
5. 実習からの学び 全体の総括.....	17
6. 参考文献.....	19

# 1.私が注目した社会問題

## (1) 長期休みと食事の問題

夏休みなどの長期休暇中、子どもたちの食事準備が困難になる要因は図1の通りである。出典はセーブザチルドレンの提供する子どもの食応援ボックスというお弁当を申し込んだ人に対し申し込んだ理由について調査したデータである。ここからわかるように食費や子どもは休みだけど親は仕事があり食事を作る時間がないことが原因として挙げられる。結果からこのような制度を知らない家庭では子どもが十分な食事をとることができていないことが考えられる。

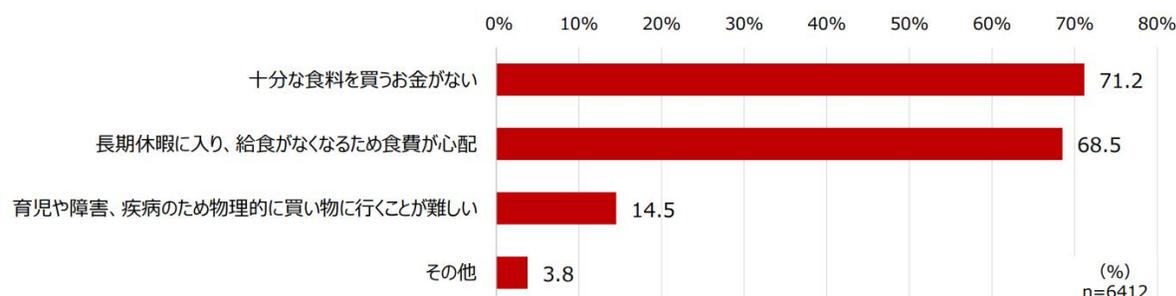


図1 ボックスの購入理由

出典：セーブザチルドレン

## (2) 不登校と学習

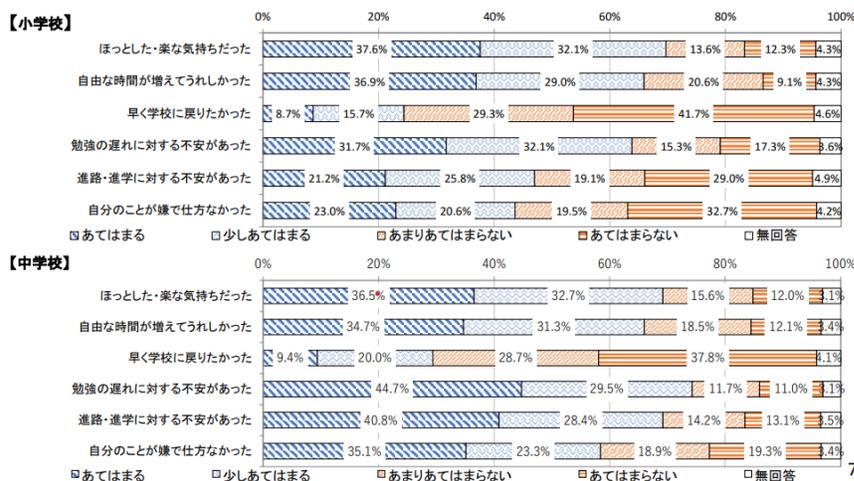


図2 学校を休んでいる間の気持ち 出典：文部科学省

この表で学習に関する質問の勉強の遅れに対する不安と進路進学に対する不安について小学生、中学生がともに、これらの質問に対して当てはまる、少し当てはまると回答した人は50%以上であったことから不登校で学校を休んでいる間、自己で学習を進められる機会がないことがわかる。親が勉強の機会を作ってあげたり、地域に子どもの居場所となって学習支援を行えるような場所を作ったりすることが必要だと考える。

## 2. 実習先に関する情報の整理

---

### (1) 団体概要

藤沢を拠点に活動する団体で学校でも家でもない子どもから大人までどんな人でも参加できるまぜこぜな状態。そんな暖かい居場所づくりを目標に掲げ、学習支援や団体として田んぼの手伝いを行ったり、長期の休み期間中子どものためにお弁当を安価で提供したり様々な活動を行っている。

### (2) 団体の歴史と経緯

1 始まりは2016年4月ご近所づきあいが希薄化している時代に「子どもたちは学校でも家でもない居場所を、日常的に必要なとしている」と、考えた有志によって藤沢市朝日町で「寺子屋ハウス」をスタート。その後2018年3月25日に湘南まぜこぜ計画を設立、2018年9月5日特定非営利活動法人として認証され、2020年藤沢市片瀬の空き家を活用した「みかじりさんち」で二カ所目「寺子屋ハウス」始動。

### (3) 主な活動内容

1. 2 「ふじらぼ」学習室  
大学生が運営する団体「ふじらぼ」とまぜこぜ計画が提携をし、朝日町の寺子屋に来ている子供の勉強を見たり一緒にイベントを実施したりしている。
2. みかじりさんち  
小学生当時みかじりさんちの寺子屋に来ていた友だちが、中学生になって一時期不登校になっていた。そんなことをきっかけに、誰でも安心して来られる居場所となるようにみかじり文庫を自分たちの手でプロデュースしようと中学生たちによって再結集が行われたカフェのような場所での交流イベントや勉強会を実施。
3. まぜこぜ学習支援  
「子ども弁当」（給食のない夏休みの間格安でお弁当を提供するサービス）利用者やホームページで見学学習支援を希望してくるケースに市内全域で対応することを目標にスタート。それぞれの事情に対応できるよう大学生たちと個別ケースごとに打ち合わせを行いながら活動中。

---

1 参加条件なし、誰もが集まれる、寺子屋ハウス

<https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/1305/saponavi-kanagawa/initiative-details/0007.html>

2 まぜこぜ計画について

<https://www.mazekoze.org/%E3%81%BE%E3%81%9C%E3%81%93%E3%81%9C%E8%A8%88%E7%94%BB-%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E8%A8%88%E7%94%BB>

#### (4) . 私が思う実習先のすごいところ（面白いところ）

子どもにとって家族以外の居場所というと学校くらいで地域の中で居場所を作り、そのような施設が存在するだけで子どもが集まるとは限らないなか、寺子屋ハウスののぼりを目印に子どもが集まってきてボール遊びをする状態を作ることや、ただ居場所を作るだけでなく長期休みの間の子どもの食事に目を向け「子ども弁当」という事業を行ったり、学習支援をしたり広範囲の支援を行って感銘を受けた。

#### (5) . 実習でやってみたいこと、達成してみたいこと

いろいろな子どもが来ると面談の時におっしゃっていたので学習支援などの活動をして多くの子どもたちと仲良くなりたい。そして無理のない範囲で子どもたちにとって湘南まぜこぜ計画はどんなものなのか初めて来たときの雰囲気はどんな感じだったか聞いてみたい。その結果によって子どもの居場所として理想的な状態について自分なりの考えを持てるよう学びを深めていきたい。

#### (6) . 実施スケジュールと現在の進行状況

6月27日 面談

7月20日 学習支援参加

その後夏休みにかけてあと5、6回ほど実習に参加

#### (7) . 引用文献・資料

図1 2023年「夏休み 子どもの食 応援ボックス」申込者アンケート結果

<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/report-foodboxsummer2023.pdf>

(2025年7月8日)

図2 令和2年度不登校児童生徒の実態調査 結果の概要

[https://www.mext.go.jp/content/20211006-mxt\\_jidou02-000018318-2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211006-mxt_jidou02-000018318-2.pdf)

(2025年7月8日)

湘南まぜこぜ計画ホームページ

<https://www.mazekoze.org/home>

(2025年7月8日)

### 3.社会参加実習、実習日記

- スケジュール

15 時～活動内容の確認

15 時半ごろから活動開始

活動 1 回目 8 月 8 日

- 今日の活動内容

今日の活動では面談後初めての活動だったため活動内容の確認からはじめ、どこでどのような活動をしているのか説明をもらった

今日の自分の活動は施設に遊びに来てくれた子供たちと遊ぶものだった。

- 今日一番の学び

今日参加した場所での活動ではあまり子どもがきておらず、代表者の原田さんは人があまり集まらなかったのは今までは学校があるときに子どもに向けてプリントを配っていたけど夏休みに入ってそれができなくなったこと、親御さんへの周知ができてなかったのが原因だと言っていました。

- キーワード 周知の方法

夏休み中、両親が仕事に出かけてしまい家に 1 人になってしまったりする中で遊びの場を提供すること、そこへ呼ぶこと、来てくれることはかなり大変なことが学べた。そういった壁をなくすことが子どもたちに居場所を提供するうえで大切なのだと思った。



活動 2・3 回目 8 月 16 日

- 今日（2 回目）の活動内容

8 月 30 日に行われるメッセに向けて顔合わせ、プレゼンテーション作成の分担やどのように発表するかの話し合いを行った。高校生から大学生のメンバーだけでの作成になるため思ったことを言いやすく、充実した時間になった。

- 今日一番の学び

集まった人の学校や居場所に関する経験談などから悩みを抱えている子どもにどのようなアプローチをするのがよいのか、子どもが遊びに行きたいと思えるような紹介をするには動画でその場の雰囲気を紹介したりするのがよいことが分かった。

- キーワード 興味を引く活動紹介

夏休み中最後のほうに活動紹介をするため、夏休みが終わっても湘南まぜこぜ計画は活動していること、その活動に子どもがいきたいと思ってもらえて、それが新しい居場所になってくれればよいと思った。

- 3 回目 活動



毎週金曜日の 15 時ころから 17 時ころまで公園で活動を行い、子どもたちと鬼ごっこをしたり駄菓子売ったりする活動を行った。

食事の配布も行っている。

- 今日一番の学び

食事をもらいに来たひと、遊びに来てくれた子どもたちを見てこういった活動はずっと続けないと人からの信頼は得られないし、遊びに来てくれないので活動を続けるということの大切さについて学べた。

- キーワード 継続

いろんなことにも同じようなことが言えるが、あらゆる団体はある程度は活動を継続して行い、参加者の声を聴きより良い団体、活動にしている。

- スケジュール

14 時半～17 時半 活動  
(みかじりさんち)

4 回目活動 8 月 22 日

- 今日の活動

みかじりさんちでは本やボードゲームが準備されていて子ども同士でボードゲームをしたり、マンガを読んだり自由に過ごしていい環境になってる。

今日はスイカ割りをして子どもや活度に参加した人たちと食べた。

- 今日 1 番の学び

初対面の子ども同士ではどうしてコミュニケーションが難しい子もいるのでそういった気まずいと感じている仲をボランティアの自分たちが取り持ってあげることによって友達ができて子どもたちの居場所になる大切な要因なのだと感じた。

- キーワード イベント

今回の活動ではスイカ割りをしたがそういったイベントによって子どもたちの中が深まることもあるし、参加してくれるきっかけにもなることを知った。



● スケジュール

15 時～17 時半 寺子屋ハウス

活動 5 回目 8 月 22 日

● 今日の活動

前回の寺子屋ハウスの活動内容は同じで駄菓子屋をしたり、子どもたちと遊んだりした

それに加えてメッセで使う活動内容の紹介やその場の雰囲気についての説明動画を撮った。

● 今日一番の学び

活動の紹介の動画をとる際に人の興味を引くような内容の動画を限られた時間の中でとるときに、細かいことに時間をとりすぎず、楽しそうだったり、面白そうだったりする雰囲気を大きく出せるようにしたほうが良いことを学んだ。

● キーワード きっかけ作り

活動を知らない人たちが活動を知り、興味を持ってくれる大きな機会としてメッセがある。メッセでは多くの人に活動を知ってもらって参加につなげるためには今回撮った動画が紹介するとき子どもたちが

楽しそうだと感じてくれるような動画になるといいと思った。

- スケジュール

15 時～17 時半 寺子屋ハウス

活動 6 回目 活動 8 月 29 日

- 今日の活動内容

今日の活動はメッセ前の最後の活動で初めて来てくれる子やいつも来てくれている子、いろんな子たちが来てくれて活動を行うことができた。

- 今日一番の学び

夏休み中で暑いのに多くの子どもたちが集まってくれるのは単純にすごいと思った。それだけ子どもにとって 1 つの大切な居場所にこの活動がなっているのだと実感できた

- キーワード 居場所

子どもたちにとっていつでも、気軽に来られる場所を用意できるというのは現代の関係が消極化している中で感あり大きな役割を負っていると感じた

活動7, 8回目 8月29日

- 今日の活動内容（7回目）

メッセでは藤沢市で活動している多くの団体が参加して、活動内容について発表を行っていた、湘南まぜこぜ計画では駄菓子を出した。

- 一番の学び

こういった多くの人に活動を知って得る機会というのは多くないため、どれだけ自分たちのことをアピールできるか、興味を持ってもらうかということが活動の成長、自分の成長にもつながるのだと思った。

- キーワード メッセ

メッセによってあらゆる人、団体との交流の場があることによって新たに発見や協力をお願いできそうな団体とのコミュニケーションなどが行うことができた。

- 活動内容（8回目）

湘南まぜこぜ計画ではメッセを行った後に花火をやることを企画していた。そのための準備を行って、自分たちも参加した

- 一番の学び

夏ならではのこういったイベントを企画することで多くの子たちが集まってくれたし、子どもたちも楽しそうにしていた。このような楽しいイベントがあることが子どもにとっての幸せだと感じた。

- スケジュール

9時半～10時 メッセ発表の最終確認

10時～14時半 メッセ

17時～18時 花火の準備

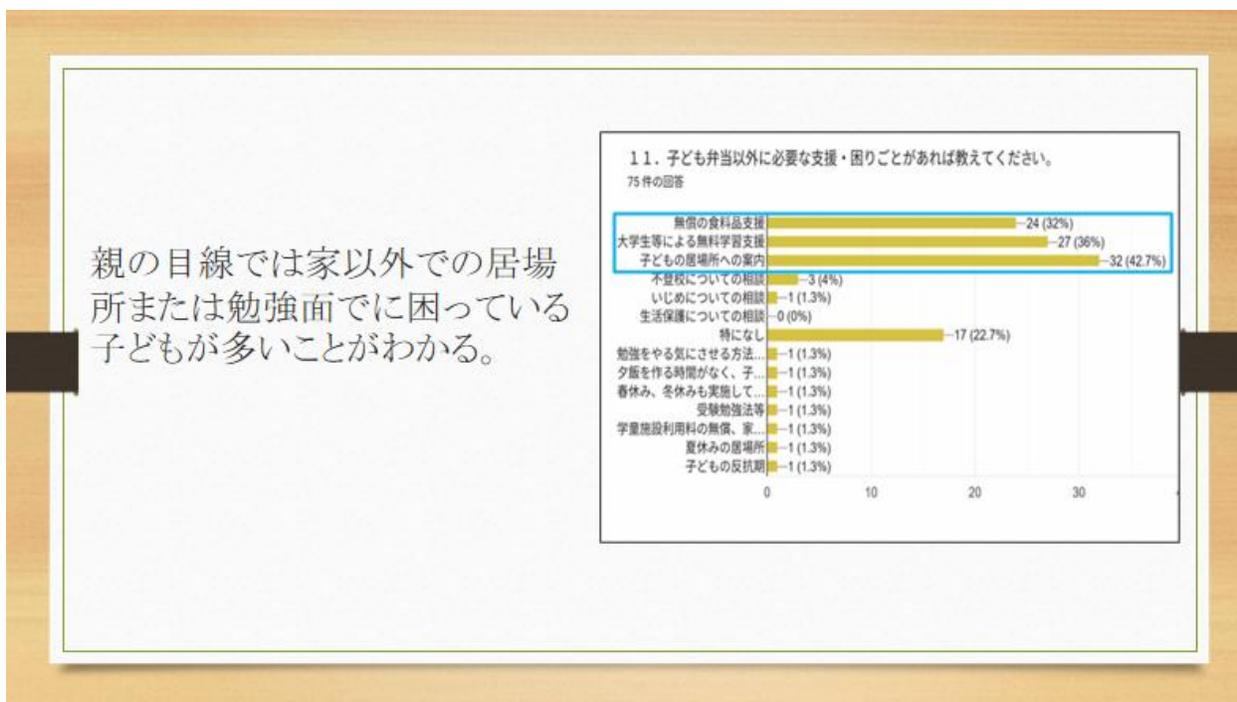
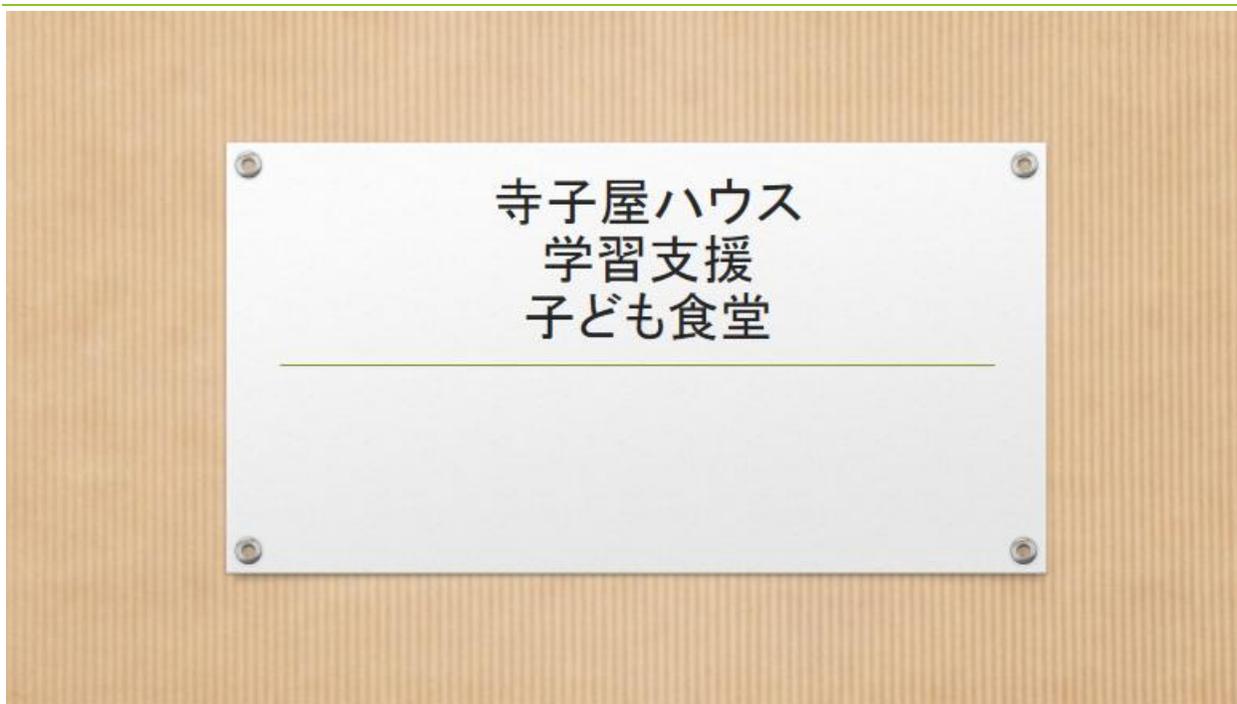
18時～19時 花火



- キーワード 実習の振り返り

今回の実習では子どもの居場所づくりについて学びを深めることができたと感じた。ただそこに遊べる場所、友達を作れるかもしれない場所、自分にとってのもう1つの居場所となる場所があることはとても素晴らしいことなんだと感じた。

## 4.実習成果発表資料



## 参加した活動の概要



寺子屋ハウスという活動では外の公園で子どもたちと鬼ごっこや水鉄砲などを使って遊んだり、駄菓子屋を開いてお菓子を売ったりしながら子どもとのコミュニケーションをとる活動をしている

みかじりさんちという活動では漫画や絵本、ボードゲームなどがある家の中で子どもやボランティアの人たちと一緒に遊んだりして自由な時間を過ごせる場所



寺子屋ハウス  
学習支援  
子ども食堂

## 活動内容

- 大学生などのボランティアの人が勉強を教える
- 飲食店と提携しお弁当を作り格安で提供



## 活動の様子



## 活動団体の魅力

---

スイカ割りや花火などのイベント  
がたくさんある！

お弁当作成のための飲食店との  
協力！

活動拡大のため他団体との協力  
などを行っている！

## 光るキーワード

---

多数の活動

子どもにとって  
の新たな居場所

## 主に参加した活動からの学び

1

メッセなどのいろんな人の知ってもらうためのイベントに参加することで興味を持ってもらう。

2

活動の中でも花火やスイカ割りなどのイベントを開催することで多くの子供が集まってくれていた。

3

活動の告知の方法によって来てくれる人の人数が変わってくる

## 学びを生かして考えたこと

- 新たな居場所を作るにはメッセやスイカ割りなどの**イベントを開催することで興味を引くこと**が新しい居場所を作ることの第一歩。
- **必要なニーズがそれぞれ違う**からただ公園や屋内で遊ぶこと、会話できる場所も必要だし学習支援のような活動も必要で多数の活動があるのは魅力的。
- 解散するときに**何気ない一声をかけてあげる**ことで「また来てもいいんだ」と思ってもらうことが重要だったりする

## 参考文献

1. 湘南まぜこぜ計画ホームページ  
(<https://www.bing.com/ck/a?!&&p=4fbf36e009133a817c328f5a4391f9a63175c90584ce0044797cca75317a64bbJmltdHM9MTc2MTAwNDgwMA&xptn=3&ver=2&hsh=4&fclid=1cd3c1c1-2903-6c2d-269e-d419285b6d29&psq=shounannmazekoze&u=a1aHR0cHM6Ly93d3cubWF6ZWtvemUub3JnL2hvbWU>)
2. 子ども弁当アンケート結果 報告  
(子ども弁当2025報告2のコピー.pdf)

## 5.実習からの学び 全体の総括

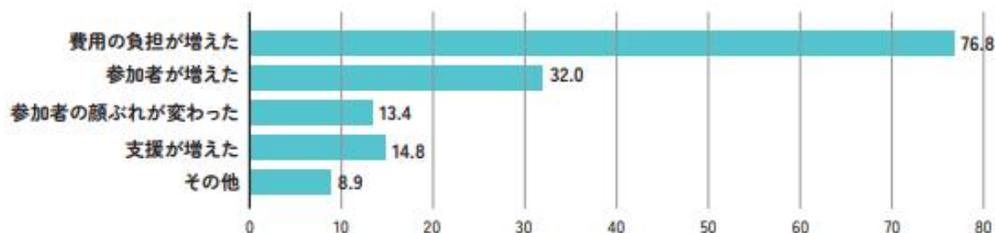
私が今回湘南まぜこぜ計画に参加して、子ども食堂のような食糧支援の活動を行う際に生じる課題や現状について学ぶことができた。加えて、食糧支援を利用する方々から子どもを育てていくうえで、不安に思っていることや課題だと感じていることについて、様々な声を聴くことができ、今日のような活動、何が必要とされているのか考えた。

湘南まぜこぜ計画では食糧支援の一環として藤沢市内の飲食店と提携してお弁当を作り、全17箇所、100円でお弁当を販売し食糧支援を行っている。自身が活動に参加したのが夏休み中だったこともあり数多くの人に利用していただいた反面、課題もあった。その課題というのが物価高である。お弁当を100円で提供を行っていたが今年は湘南まぜこぜ計画側が負担する金額が前年の400円から50円増えたのである。

現状として全国的にも同様に物価高による影響を受けている状態にある。全国子ども食堂支援センター・むすびえでは2024年に「子ども食堂の現状&困りごとアンケート」というものを実施し、全国の食糧支援を行う団体が困難に感じていることなどが紹介されている。子ども食堂運営にあたっての困りごとは必要な人（貧困家庭など）に支援を届けるための周知・広報、運営スタッフの不足・後継者不足、運営資金の不足という順に割合が多くなってきている。その中で物価上昇による子ども食堂への影響という調査があり、物価上昇による変化として参加者が増え、同時に活動を行うための費用の負担も増加している傾向にある。

### 20 物価上昇による変化（複数回答）

回答数：1,001件 単位：%



その他：支援が減った、支援内容が変わった、おかわりする子が増えた、高齢者とのつながりがより濃くなった、食材購入先の変更・フードバンクの利用、メニューの工夫など

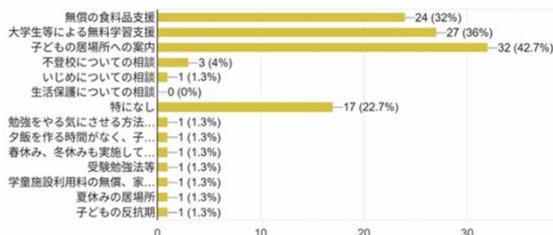
子ども食堂現状&困りごとアンケート 第三節物価上昇による子ども食堂への影響

出典 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ『子ども食堂の現状&困りごとアンケート2024』調査結果発表。 [musubie\\_Qvo9B9.20b](#)

この背景には物価上昇の影響以外にも行政からの支援や民間からの食料の支援、提供が行われていないことも原因に挙げられる。ほかにもスタッフの高齢化が進んでいることによる活動を行うための体力に懸念点があることも調査からわかっている。これらの課題解決にむけできることを考えてみた。湘南まぜこぜ計画では今回8月末にメッセに参加し、活動についての紹介を行い他団体とのかかわり新たにできた。これにより活動の拡大をまた行えるようになったということだった。よって周知のために何かしらのイベントに参加するという事は有効だと思う。スタッフの高齢化についてはこの講義のように授業の一環として地域の子どもの食堂に高校生や大学生を派遣するような形をとり、クラスメイトや友達と活動に参加できる環境を作ることが有効だと考えた。運営資金の不

足、費用の負担が増えたことは他団体との協力によって負担を分割することやクラウドファンディングによる資金の確保、野菜などはわけありで商品にできなかったものを提供してもらうことで具材を賄うということもできるだろう。

11. 子ども弁当以外に必要な支援・困りごとがあれば教えてください。  
75件の回答



子ども弁当利用者に対するアンケート結果  
出典 湘南まぜこぜ計画

今回の活動で子育てについて不安に感じていることについて知ることができた。それらが上の図から確認でき、大きく2つほどあり、子どもにとっての新たな居場所、無料の学習支援が必要とされている。

子ども・若者の居場所づくりというのは居心地がいいとおもえるものであればどんな場所・時間・人との関係性であっても居場所になりえる。一方で「居場所作り」は大人をはじめとした第三者が主体となることが多い取り組みである。子どもの居場所の特徴は個人的なものであり、変化しやすいものであること、立地や地域

性、技術の進歩などの影響を受けるものであること、目的によって性質が変化し得るものであること、現状として多くの子供にとって学校外場所になっていること、支援する側と支援される側との相互作用があること、地域づくりにつながるものであること、これらの性質が子どもの居場所にある。これらのことが求められる現状は「地域のつながりの希薄化、少子化の進展により、こども・若者同士が遊び、育ち、学び合う機会が減少しており、「こども・若者が地域コミュニティの中で育つ」ことが困難になっている。」と文部科学省で述べられている。

現状に向き合うために、私が現地で活動をしていて感じたのは何をやるにしても強制はせず、子どもたちのペースに合わせる、子どもたちのやりたいことに対してこちらが可能な限り全力で答えてあげることで子どもにプラスなイメージを持ってもらえるのだと感じた。居場所を必要とする子どもは発見することは難しい、加えて活動の拡大には資金や人員が必要になる。これらの問題は他団体との交流ができる場に参加し、新たな関係を生み出す、活動の中にイベントを予定し、参加してくれる子どもを多くできるような工夫をすることが必要だと考える。

## 6. 参考文献

---

<https://www.cfa.go.jp/policies/ibasho>

こども・若者の居場所づくり 子ども家庭庁（参照日 2025 年 12 月 7 日）

[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/816b811a-0bb4-4d2a-a3b4-783445c6cca3/9dade72e/20231201\\_policies\\_ibasho\\_09.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/816b811a-0bb4-4d2a-a3b4-783445c6cca3/9dade72e/20231201_policies_ibasho_09.pdf)

こどもの居場所作りに関する指針 文部科学省（参照日 2025 年 12 月 8 日）

<https://musubie.org/news/grant/10211>

第 9 回「こども食堂の現状&困りごとアンケート 2024」調査結果発表 ～ 「物価高の影響感じる」 9 割、もらうと嬉しいのは「米」が 8 割 むすびえ 参照日（2025 年 12 月 7 日）

### 湘南まぜこぜ計画 原田 様

この度は社会参加実習の授業において、学生の実習にご協力いただき、誠にありがとうございました！

昨年の春に入学したばかりの一年生ですが、それぞれが主体的に興味関心を持っている社会問題の分野について考え、実習先や取材対象を選び、下調べなどの事前学習も、不器用ながらも丁寧に取り組みました。皆様の快いご協力のおかげで、それぞれが充実した実習ができたと思います。心より御礼申し上げます！

実習を経て、学生たちは実習日記や取材の記録を整理し、秋には成果発表会を行いました。それぞれが個性的に工夫を重ねた発表で、多くの学びをシェアすることができました。もうすぐ大学 2 年生になる皆さんは、この 1 年で大きく成長したように感じます。

実習の成果を、プロセスすべてを一人一人、その人だけの『社会参加実習報告書』にまとめ上げました。みんなの「自分の言葉」を大切に、教員の手による添削は全く入っておりません。心から御礼を申し上げるとともに、お送りいたします。未熟ではありますが、学生たちの努力の成果をぜひ見てあげてください。

今後とも若者たちを育て上げていく上で、引き続きご協力いただけますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。

駒澤大学文学部社会学科教員 李 妍焱

yanyan@komazawa-u.ac.jp

2026 年 1 月 7 日